

「説明納得せず」8割

岸田政権による「異次元の少子化対策」をめぐり、世論は厳しく提綱を送っています。国民の信感の大本は、「異次元の少子化対策」そのものと、加藤貞山氏の政策担当相の「あやあやな答弁にあります。 (岸田政権)

日本世論調査会が16日に発表した少子化に関する世論調査によると、岸田政権の「異次元の少子化対策」と「期待しない」「あまり期待しない」と答えた人は計6割以上となりました。「支援金」制度の創設については、「どちらかといえば賛成」を含め賛成41%、「どちらかといえど反対」58%という結果になりました。この結果は、世論調査によると、子育て支援の負担が大きくなることに対する懸念が大きいことが示されています。

國賃の不回感の大本にはあるが、財田政権による政策そのものへの不信感といえます。とりわけ、この間、迷走していくのが加藤担当相の答弁です。

加藤氏は国会答弁で「支援金」制度での国庫負担について「裏腹負担ゼロ」ながら繰り返し強弁しておらず。一方、公

「実質負担ゼロ」発言に不信感

「支援金」の一人当たりの負担額は、「月平均500円弱」と算込まれる。（2月6日）、「26年度は300円弱、27年度は400円強」（2月13日）、「1000円を超える人がいる可能性はある」（2月22日）と迷走している。

2月29日に行われた衆院予算委員会公聴会では、公述人の鈴木重厚・慶應大学教授が「支援金制度は撤回すべき」だと主張。賃上げでの「負担増ゼロ」についても「実際に物価嵩た限りの賃金増となるか分からぬ」といふタスキの皮算用だと批判しました。公述人の日本総合研

研究所の西元和彦氏が国際健康保険加入者の負担の靈活性に着目するなど、世間での負担の格差が指摘されました。

軍事費減こそ
そもそも、政府による「[HAC]・予算・政策」の財源のうち、「歳出改革」の実態は、医療・介護などの公費負担の削減です。今年の年金改定率がプラス2・7%でした
が、昨年の物価上昇率3・2%と並んでつかず実質の所得は下がってしまった。こういった中での「支援金」の負担は、高齢者へのれいなる負担増しかねないと思われます。「異次元の少子化对策」での負担は、高齢者

将来的なためとなるべき政策は明りかです。政府が手を付けようとしている二種の軍事費、万能開拓経費を削減し、「予算等」には、インボイス制度導入による消費税収相当分の活用が含まれています。個人事業者・フリーランスなどは約1-3万人いることになります。インボイスでの增收額は一ヶ月の億円。若者が多くフリーランスなどに令和化政策と称して、平均13万円もの増税が押しつけられることがあります。

既定予算の最大限の活用等」には、インボイス制度導入による消費税収相当分の活用が含まれています。個人事業者・フリーランスなどは約1-3万人いることになります。インボイスでの增收額は一ヶ月の億円。若者が多くフリーランスなどに令和化政策と称して、平均13万円もの増税が押しつけられることがあります。